

# 舞踊

毎夏7月後半から8月後半にd-倉庫(東京・日暮里)で行われるダンスのフェスティバル「ダンスがみたい!」。16回目の今年は、「新人シリーズ受賞者の「現在地」と題して、毎年1月に行われる「新人シリーズ」の受賞者の中から、この10年ほどの間に受賞した14組が公演を行なった。受賞時の作品からどのような変遷と成長を経ているのか興味深かった。

その公演の中から、柴田恵美(2009年受賞)と川村美紀子(2012年受賞)をとりあげよう。二人とも受賞後も若手振

イストの岡部昌生さんか、約2年をかけて、被災した防潮堤やテトラポッドなど震災遺構をフロッタージュ(こすりだし)した作品が張り出された。「はま・なか・あいつ文化連携プロジ

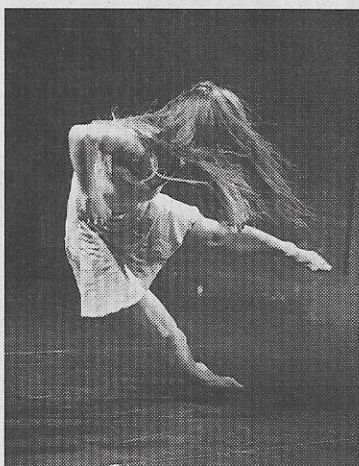
た作品「おらほの碑」である。そこには「去年の三月十一日だ。こじはんのちん」とめえだったべ。なんでもんね。天地ひっくりけるぐれえの揺れでな」と、私にはほほわかる土地の話し言葉そのままの力

発言があつたことが何よりアートが沁みこんだ証なのだから。地元に合った在りようをみんなで掘り起こし、想像し、迷いながらも探してゆくこと、それがこのアートプログラムの目

のかと気づく。それが理想です」と語る。復興、復旧、心のケア…。福島にはシャワーのことく、地域の人々に根ざしたアートが注がれてほしい。(やました・はるこ)

## 文化

### ダンスがみたい! 16



撮影：大洞博晴

付家・ダンサーとして活躍し続けている。

柴田の作品は、体のす

みずみまで行きわたる感性と動きの一つ一つに対する集中力、丁寧

### 幅広い感性を見せる川村

クルズトール風な気ま

### 瞬間の緊迫感増した柴田

にそうした緊迫感を増

していた。それとは対照的に、他のダンサーの群舞は解放感やエンターテインメント性があり、柴田の振付家としてのポキヤブラリーの豊かさが見られた。

川村の作品の魅力は、斬新なアイデアを様々な形にアレンジしていく感

(舞踊評論家)

西田 留美可

### ◆劇団四季ミュージカル「赤毛のアン」

赤い髪の毛、好奇心と豊かな想像力を持つアンの物語を、原作の魅力をつぶりと詰め込み、劇団四季が素敵なミュージカルで送る。東京・浜松町の自由劇場(港区海岸1ノ10ノ53)で28日まで。全席

絵」の優れた作品を展示し、現代の新しい「だまし絵」の挑戦も紹介。東京・渋谷のBunkamuraザ・ミュージアム(ハローダイヤル ☎03・5777・8600)で10月5日まで開催中(9月8日休館)。その後、兵庫、名古屋に巡回。

◆「岡本太郎とアール・ブリュ

### 機械化され

初出の一九八九年、ネットワーク通信は電話線による有線モデム接続で速度も現在の数十分のと非力だったが、現在スマートフォンでネットに常時接続し、誰かと